

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-131	12-026	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)		
Associations between depressive and anxious symptoms and prenatal alcohol use 抑うつ・不安症状と妊婦の飲酒との関係について		
執筆者		
Leis JA, Heron J, Stuart EA, Mendelson T		
掲載誌		
Matern Child Health J. 2012 Aug;16(6):1304-11.		
キーワード		
アルコール乱用、大量飲酒、不安、抑うつ、ALSPAC		
要旨		
目的： 抑うつ・不安症状は妊娠中によくみられる症状であり、妊婦の健康行動に影響すると考えられる。飲酒がもたらす妊婦の精神的な健康への影響は、妊婦の飲酒者が多いことを考える上で重要なことであり、発育しつつある胎児へ悪影響を及ぼし得ると考えられる。本研究の目的は、妊婦が抑うつ・不安症状を有することとその後の妊娠中の飲酒の有無や大量飲酒の回数との関係を調査することである。		
方法： 対象者は、地域住民を対象とした前向き研究であるthe Avon Longitudinal Study of Parents and Childrenに参加した女性12,824名である。参加者は妊娠第1期に抑うつ・不安症状が、第3期に飲酒状況が評価できるアンケートに回答した。データの欠損値を補定し、回帰モデルへの当てはまりを確かめた。		
結果： 妊娠32週の女性の34%が少なくとも1杯の飲酒をしており、17%が大量飲酒をしていた。不安症状と飲酒行動との間に弱い相関を認めたが、抑うつ症状と飲酒行動との間には相関は認めなかった。妊娠18週における抑うつと不安のどちらの症状も、32週における大量飲酒と弱い相関を認めた。		
結論： 妊娠中の抑うつや不安の症状は大量飲酒の原因となり得ることが示唆された。妊娠中における不安や抑うつ症状の影響を今後さらに調査する必要がある、それは公衆衛生政策を推進する上で有益である。		